

## 五戸総合病院での地域医療研修

令和6年1月

十和田市立中央病院 2年次研修医 小澤天祐

令和6年1月8日から2月2日の1ヶ月間お世話になりました。内科病棟の管理を主にさせていただいたほか、内科外来、手術、夜間当直、訪問診療などを行う機会をいただきました。

はじめに戸惑ったのが紙カルテの使い方でした。普段電子カルテしか使ったことがなかったため、紙カルテ特有のルールに慣れるまで時間がかかりました。指示漏れを減らすために看護師さんへの口頭での指示も同時に行わなくてはならない場面も多かったですが、それゆえに看護師さんとの連携をより取れるようになったと思います。そもそもスタッフ全体の人数が少なめであるためか十和田市立中央病院よりさらにスタッフ間の距離が近く密なコミュニケーションを取ることができ、何かの会話のついでに患者さんに関する有益な情報などを得る機会も多かったです。この経験を活かして十和田に戻ってもコメディカルとの距離を近くして連携していきたいと思います。

さて、五戸総合病院ではとくに常勤医師の数が不足していることもあり、研修医の裁量が普段研修させていただいている十和田よりも遥かに大きくやりがいがありました。しかしその分だけ責任も大きかったです。カバーすべき疾患の範囲が広く、勉強不足・実力不足を痛感させられ、研鑽の毎日でした。

また急性期病院からリハビリテーション目的に転院してくる患者さんも多く、病院機能の違いを身をもって体験できました。同じ青森県内であっても病院ごとに役割が異なることは制度上は理解していましたが、実際に携わってみることができよかったです。家族と過ごす最期の時間を大切にするため施設でのお看取りを希望される方もいらっしゃり、自分がどうすればベストの緩和ケアを提供できるのか試行錯誤することも初めてのことで、慣れないながらも精一杯のことをさせていただきました。

訪問診療では特養をはじめとして施設入所中の患者様がどのような生活を普段送っているかを垣間見ることができ、受診時や退院後の生活環境を推し量ることができるようになりました。このように患者背景を想像できるようになると、全人的なケアをより解像度高く提供できるようになり、独りよがりの医療を防ぐことができると思いました。

まとめると4週間という短い期間でしたが、今後医師として働いて行く上でかけがえのない経験を地域医療研修を通して得ることができました。安藤院長をはじめ五戸総合病院のスタッフ方、治療させていただく機会をいただいた患者様とそのご家族等全ての関係者にお礼申し上げて感想とさせていただきます。本当にありがとうございました。